

虚子記念文学館投句特選句

・令和八年五月

稲畑廣太郎 選

葉桜の影拾ひゆく朝散歩

大阪 綿谷千世子

雲梯の一手一手に若葉風

埼玉 吉田春代

一山のはち切れさうに囀れり

兵庫 岩水ひとみ

この蟻も花鳥諷詠支へけり

神奈川 進藤剛至

母の日の朝は夫焼くパンケーキ

兵庫 近藤六健

夏めくや舞台せましとはじける子

兵庫 深尾真理子

立ちつくす伝言板の文字朧

三重 池本準一

バイエルは今日で卒業夏に入る

大阪 ふじもと言果

ヒーローはタイツ姿や昭和の日

埼玉 小田毬藻

練供養若き菩薩の深呼吸

兵庫 武田奈々

(青少年)

入選句・令和八年五月

集魚灯青と緑の烏賊釣火	三重	松村咲子	山襲ふほむら立夏の雨が消す	兵庫	西村みどり
芦屋川立夏の光松に風	兵庫	谷本逸歩	白牡丹帰天の友へ散華かな	兵庫	黒田千賀子
セロハンに光たたまる若楓	兵庫	足立朱麻	首位に立ちいざ甲子園夏に入る	兵庫	宮地若木
その中に血潮の透けて袋角	大阪	米澤悦子	墨袋するりと抜けし烏賊甘し	大阪	田邊育子
土蜘蛛の糸飛んで来し壬生狂言	大阪	藤本公子	水槽に小海老跳ねたる立夏かな	兵庫	岸川佐江
人集り蛇も集りし藤の花	兵庫	細田清子	揚雲雀天上の扉を開け放ち	岡山	石井宏幸
春日社に神鼓の響き藤薫る	奈良	堀田ますみ	新緑に清く零るる日射しかな	兵庫	河野ひろみ
風の庭マロニエの花ほころんで	岡山	伴 明子	卯の花やマリア観音祀る里	兵庫	涌羅由美
はりつけの烏賊のひりひり乾く風	大阪	若林友子	夏はじめ師の俵の席ひとつ	大阪	白石 翠
青々と流れを埋め蘆の丈	兵庫	宮本露子	四世代揃うて祝ふこどもの日	大阪	多田羅紀子
隠れん坊もう終ろうよ春の雷	兵庫	森岡喜恵子	我の前に行つたり来たりしじみ蝶	兵庫	高倉千都
寄する波光りを乗せて夏来る	大阪	立入宮子	啄みてこぼす朝光花うつぎ	兵庫	中村恵美
香水の残り香君の来しを知る	三重	前出公子	裏参道ふいに瀬音や花卯木	香川	葛原由起
晩学の今は青春花開く	三重	前出美千子	夏立ちぬ海の匂ひの平田町	兵庫	藤井啓子
生簀より烏賊持ち上ぐる漁師かな	滋賀	尾崎恵子	春風の螺旋階段登りけり	徳島	多田まさ子
ふくらめる大和青垣夏に入る	奈良	堀田建夫	のどけしや何もなくとも暇がある	石川	辰巳葉流
しばらくは畑に置かれし花大根	三重	中島庸子	白き蝶白き花へと吸はれゆく	鳥取	棕 則子
宮若葉四方よりの風集ひくる	大阪	杉山千恵子	汀子邸梢の松蟬聞ける頃	香川	三宅久美子
ふるさとの八十八夜忙しけれ	兵庫	小林昌子	新茶汲む一滴ずつの水輪に香	鳥取	前田 千
宮入りの太鼓の響動き春祭	兵庫	高野さち	動物園改修中なり亀の鳴く	兵庫	永沢達明
壬生狂言炮烙割といふ見せ場	大阪	河村久美子	新樹晴三階建の棟上がる	京都	山崎貴子
春光をがばと擡げて河馬浮ぶ	兵庫	上岡あきら	館の庭森の香となる立夏かな	兵庫	玉手のり子
葉桜や夢の続きは来世にて	兵庫	伊東伸子	初めての晴見る赤子大原志	京都	夜寺耕太

子供らの未来は無限端午の日	京都	西村やすし	葉桜の園にバザーの声交ざる	兵庫	西尾とし子
路地裏に鴨川踊漂ひぬ	兵庫	池田文子	葉桜の日の斑の揺れを渡り来し	兵庫	川村ひろみ
菖蒲湯に浸かりジエンダーフリー説く大阪	大阪	河辺さち子	峠道牛の声来る夏霞	兵庫	山崎渺美
菖蒲湯に入れば賢くなると父	大阪	須知香代子	齒母舞を乳色に染め夏霞	兵庫	大西美知子
円高の影響受けぬ雀の子	富山	三河三可	壺に溢る白爛漫や夏来る	兵庫	三木雅子
右曲がり左曲がりの植田かな	茨城	杉山 満	葉桜の影大らかに揺らぎをり	兵庫	山岸正子
石塀に色を与へし鉄線花	大阪	富永武司	夏霞空に溶け合ふ海の色	兵庫	河合美恵子
ぼんやりと宇宙は近し揚雲雀	千葉	鹿野川小舟	スカイツリー子と並び見る宵涼し	兵庫	岩永静代
壇ノ浦戦ひ過ぎて夏に入る	東京	清水あき	吾には吾の母には母の団扇かな	兵庫	天下明太郎
蝸牛雨のともしび背に負ひて	岐阜	丸山美樹	手入れして手入れをしても茂るかな	兵庫	辻田あづき
大南風みな欠航の奄美行き	愛知	海神瑠珂	家紋入れ未来を託す武者人形	兵庫	高橋純子
卯の花や川に浮く雨浮かぬ雨	大阪	押見げげげ	カーネーション白を買ひゆく野球帽	兵庫	岩鼻絹子
薫風や玉置神社の鳥の声	奈良	堀ノ内和夫	ほほゑみの恩師ぱりりと夏シャツを	兵庫	風待ラテ
後ろ手に新樹の道を歩きけり	京都	草夕感じ	冷素麵三輪の面影ざぶざぶと	奈良	豚々舎休庵
白似合ふ若さは眩し風薫る	石川	白根寿子	若楓隣る大樹の暗くあり	兵庫	二瓶美奈子
夏蝶のゐた間に風のあつたはず	千葉	志村 肇	草笛やユーモレスクは調子外れ	石川	杉村佳津子
矢印は己へ向けよぺんぺん草	兵庫	杉浦萌芽	夕虹に向ひし鳥の羽根煌めく	神奈川	斉藤苑子
告白の息やはらかき茹小豆	大阪	棕本望生	スニーカー足首細く夏めける	千葉	野末トヨ
稚き仕草のありぬ罌粟の花	三重	水越晴子	宮ヶ瀬に沈みし里の星祭	兵庫	福田光博
頭だけ見えて声する麦の秋	大阪	深森佳鶴	天然の風こそよけれ夕端居	和歌山	中島紀生
心地よい額の温度薄暑かな	大阪	深森明鶴	薔薇映えて薔薇に映ゆるや異人館	兵庫	伊集院秀樹
たをやかな筆のためらひ白牡丹	三重	瀬川琴女	ドア開けてカラオケの声夏来る	兵庫	高市敦之
山と海近き芦屋の風五月	兵庫	田中節夫	予後なれば鱧の天ぷら所望せり	兵庫	惠島祥一朗
葉桜や馴染の茶屋の休み入り	兵庫	道中義臣	庭先の五月満開客あるや	兵庫	惠島京子

水芭蕉木道軋みまた静か

神奈川 小林 心

百合白し傾く少女の夢心地

大阪 森重深鶴

ばら園に名前を知らず薔薇の咲き

兵庫 春の新々

花は散るふはりふうわり我が人生

兵庫 松本 敬

大会の薫風待たず逝かれけり

兵庫 奥田好子

光琳の思ひ人思ふ燕子花

東京 宮村土々

緋袴の巫女水打てる鞠の庭

兵庫 太平楽太郎

勝馬の逸るいななき馬場の果て

兵庫 キートスばんじょうし

鈴なりのパドック静か日本ダービー

神奈川 平野孤舟

幻聴に軍靴の響き白桜忌

滋賀 近江堇花